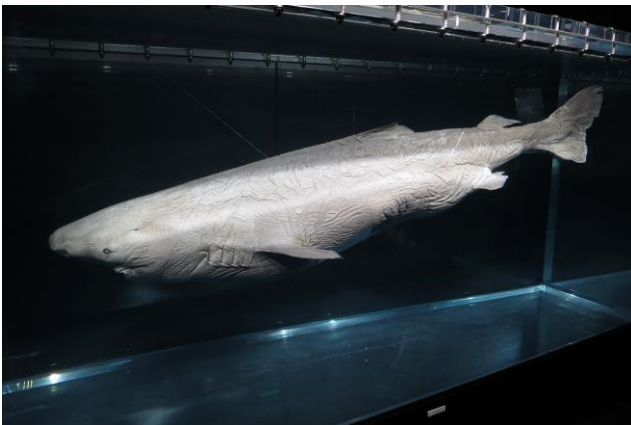


ふじのくに地球環境史ミュージアム

くらやみの覇者 —駿河湾のサメにみる多様性と未来—

開催期間：平成30年12月1日（土）～平成31年3月24日（日）



【企画展の内容・目的】

- 駿河湾のサメに焦点を当てた企画展を通して、海の生物に対する興味の喚起、理解の深化を促すとともに、自然との共存について考える。一般の興味や関心・話題性が高い「サメ」や、「深海」の代名詞的存在である駿河湾に関するテーマを扱うことにより、観覧意欲を刺激・誘発し、多くの来館者への「海の学び」の実現を目指した。
- 関連事業として、サメに関する講演会（2回）および深海ザメの解剖見学会（1回）を開催した。講演会は第一線で活躍するサメ研究者らが、解剖見学会は実際の駿河湾の漁業関係者（漁師）が、それぞれ演者となった。展示の内容を、現場当事者ならではの迫力・実感を伴いながら補完することで、より効果的な「海の学び」の実現を目指した。
- サメをむやみに恐れ、避けるだけでなく、適切な意識と知識をもって接することのできる人材や、身近な海を意識し行動できる人材の育成を目指した。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成30年12月1日（土）～平成31年3月24日（日）
- 開催場所：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画展示室1・2
- 入場者数：13,800人



ふじのくに地球環境史ミュージアム 外観



企画展会場 入口



企画展示室1



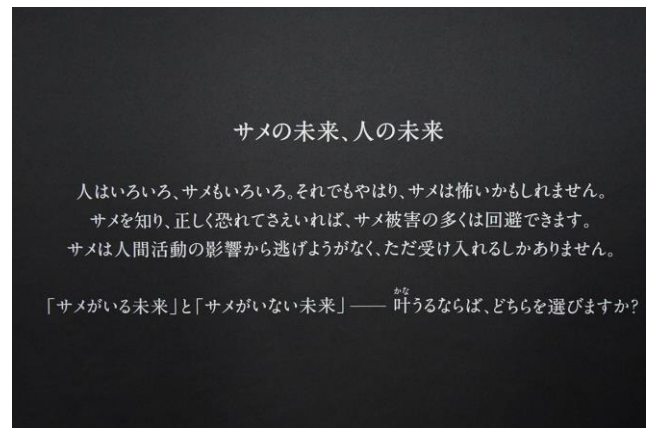
企画展示室2

静岡県立の自然系博物館「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は、生徒数の減少により廃校となった高校校舎をリノベーションして作られた新設館である（平成28年3月開館）。教室のみならず、かつて使用されていた学習机や椅子等の学校什器をも再活用することで、あえて「学び舎」の空気感を色濃く残している。そのデザインコンセプトは今回の企画展においても踏襲されており、観覧者の自然な「学びの態勢」を誘発することで、学びの効果を高める狙いを持たせた。また、駿河湾を望む当館の立地条件を活かし、同湾に生息するサメに焦点を絞って展示ストーリーを組むことで、より実感できる効果的な「海の学び」を導く展示を目指した。なお、本企画展は隣接する2室（企画展示室1・2、計142㎡）を用いて展開した。

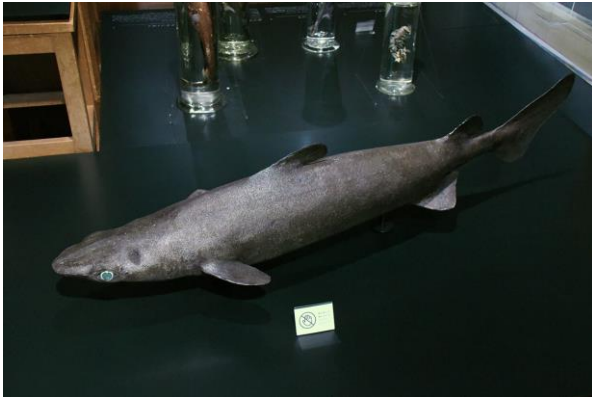


日本最深の湾であり、豊かな深海環境で知られる駿河湾、そして海のトッププレデターであるサメを主題とするため、企画展のタイトルを「くらやみの覇者」とした。この「くらやみ」という語は、深海の暗闇だけでなく、危険生物として過剰に忌避され、「くらやみ」に包まれたサメの実像をも意味したものである。

「くらやみ」感を表現するため、展示室内は照明を極力抑えた。標本・剥製の展示台や掲示した解説パネルの多くも黒を基調としたデザインとし、また、照明にわずかな青色のフィルターをかけることで、そこが水中であることを感じられる仕掛けを施した。照明を抑える一方で、展示物やパネル等の文字を見やすくするため、入室する観覧者一人ひとりに「サーチライト」と称する懐中電灯を貸与し、その光をもって観覧していただいた。スポットライト効果もあってか、標本の細部や解説文をじっくり見る（読む）観覧者の姿が印象的であった。集中力の継続が難しい低学年の児童も、自分で操作できる器具があるためか飽きることなく意識を展示物に向ける姿が目立ち、効果的な「学び」を実現できた。



当館では館名にもある「環境史」を「人と自然の関係の歴史」と定義し、その歴史や現状を調べ、学び、未来のあり方を考えていく場となることを目的としている。今回の企画展でも、単に駿河湾のサメの生物学的・自然史的な紹介にとどまることなく、サメと人との関わりの現状や今後のあり方を問う内容を多く取り入れ、いま海で何が起きているのかを学び、何をどのように守り、利用するのかを考える仕掛けを施した。企画展示室1の出口には暗幕にメッセージをさりげなく配し、さらなる思考を誘発した。



駿河湾ではこれまでに64種ものサメが記録されており、分類群の多様性も極めて高い。そのため同湾産サメに限った展示であっても、現在地球上に生きるサメ全体の多様性や生態的特性、彼らがいま置かれている現状等を、大まかながら概観することができる。今回の展示では、その多様性を実感できるよう、駿河湾から記録のある46種のサメの剥製や液浸標本を展示した。実物だからこそ醸し出される迫力やリアリティは、書籍やネットでは決して感じられるものではない。駿河湾という類まれな環境を象徴する、同湾でしか確認されていないサメの稀種も展示した。実感を伴う効果的な「海の学び」を実現できるように、剥製には保護ケースをできるだけ使用せず、至近距離で観察できるようにするとともに、展示会場をテーマ（形態的多様性や生態的多様性、人との関わり等）ごとにコーナーで分割し、それぞれに印象的なタイトルとキャッチコピーを配して、観覧者の興味・関心の喚起と思考を促した。

【来館者の声】

- いきものがたいせつにかんじたりうみがすごいところだと学べた（7歳、男性）
- 海にはこわい面もあるけど守りたいと思いました（11歳、男性）
- サメから資源のことについて考えさせられる内容だった（20代、男性）
- ミクロな着目でマクロを考えさせる展示が良かった（20代、男性）
- 「サメ」に限らず全ての動物・魚に「こわいのはサメか、人間か？」は言えると思う。人間>自然を＝（イコール）に近づけるのは、答えも出なく、難しいが、その問いは感じていたいと思う（30代、女性）

2. 関連事業の内容

■講演会・トークショー

- 【開催日時】 ① 平成31年1月13日（日）14:00～16:00
② 平成31年2月3日（日）14:00～16:00
③ 平成31年2月24日（日）14:00～15:00

【開催場所】 ふじのくに地球環境史ミュージアム 講堂

【参加者数】 合計 297人

【実施内容・目的】

- こわいのはサメか人か。①地元の漁業者、②サメ研究者、③サメ専門ジャーナリストといった様々なジャンルの演者による講演・トークショーを通して、海のトッププレデターの実際の姿や、いま彼らに何が起きているのか、どのように付き合っていけばよいのかを学び、自ら考える人材を育てる。



深海ザメ解剖見学



長谷川久志氏によるトークショー

現場や研究最前線の情報に触れることによって、展示内容の理解をより深化させ、サメとはどのような生物なのか、いま海で何が起きているのか等について学び、実感するイベントシリーズである。

①では地元の深海魚専門漁師である長谷川久志氏・長谷川一孝氏による深海ザメの解剖を見学し、体のつくりや特徴を学ぶとともに、駿河湾における深海ザメの漁獲の実際についての話を伺った。漁師ならではの豊富な経験に裏打ちされた話はこの上なく実感を伴うものであり、児童から大人まで全ての聴講者を魅了する盛況な海洋教育イベントとなった。このイベントは受付開始からわずか10分（電話受付・窓口受付）で定員に達するほどの人気を博し、その需要の高さ、興味関心の高さをうかがわせた



②では、サメ研究者によるサメ研究最前線に関する3題の講演を行った（田中 彰氏「駿河湾の深海ザメ」、シェリー・クラーク氏「サメと混獲」、堀江 琢氏「深海ザメと化学物質汚染」）。かなり専門的な内容となる場面もあったが、演者らの話術の巧みさはもとより、インターネット回線を利用した海外研究者の講演（在ローマのクラーク氏による講演）等の試みも功を奏し、聴講者の関心や集中力は最後まで途切れることなく、講演後には活発な質疑応答もなされた。



③はサメ専門ジャーナリスト（シャーク・ジャーナリスト）の沼口麻子氏により、過剰に恐れられサメの実像や彼らとの付き合い方、楽しみ方等についてお話しいただき、サメに対する愛情にあふれた異色の講演会となった。サメに関する近著がベストセラーとなった沼口氏の講演ということもあり、聴講者の関心は非常に高く、講演後も著書へのサインや個別質問等のために聴講者が列をなし、予定時間をはるかに超える盛況なイベントとなった。

【来館者の声】

- 私たちの、身近な海だから、大事にしたいと思った（10代、女性）
- 共存について考えさせられました（30代、女性）
- 海の生物の研究に改めて取り組む決意を新たにしました（40代、女性）

■ギャラリートーク

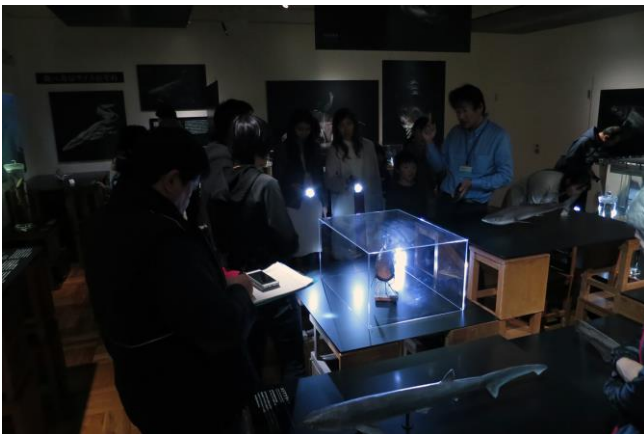
- 【開催日時】 ① 平成30年12月8日(土) 14:00 ~ 14:30
② 平成30年12月8日(土) 14:00 ~ 14:30
③ 平成30年12月8日(土) 14:00 ~ 14:30
④ 平成30年12月8日(土) 14:00 ~ 14:30

【開催場所】 ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画展示室1・2等

【参加者数】 合計 145人

【実施内容・目的】

- 展示を企画・担当した当館研究員による展示解説。実際に展示製作を担当した研究員だからこそできる解説により、展示内容・意図を的確に、詳しく学ぶことができる。



展示を担当した研究員が対話形式で解説を進めることにより、参加者の知的好奇心への個別対応も可能となり、効果的な学びが実現した。

【来館者の声】

- 身近な駿河湾も、知らない事がたくさんある(50代、女性)
- もっと知識を深めたい(20代、女性)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

サメは、当館のコンセプトを最もよく表現し、効果的な「学び」を展開できる対象生物群のひとつである。種的にも形態的にも生態的にも多様性に富み、人との関わりも深い。危険生物として恐れられる存在である一方、本当にこわいのはサメか人か、と振り返ると、人間の業の深さが浮き彫りになる。一般の興味関心も極めて高く、人と自然の関係を考えしていく上での素材として、これほど好適な生物もそうはいない。

しかしざ展示製作するとなると、多くの問題が立ち上がる。海のトッププレデターであるが故に個体数は多くなく、まず展示物の素材となる鮮魚の確保が難しい。仮に得られたとしても、大型種が多いため、剥製化のための費用確保が必要となる。他館所蔵の既存剥製を借用する場合には、搬送費の確保が必要となる。効果的な学びをもたらす展示を目指すのであれば、展示デザインのクオリティ確保もまた重要である。

今回活用させていただいた「海の学び ミュージアムサポート」は、こうした問題を解消し、連携体制・ボリューム・クオリティのいずれをも大幅に向上させた。観覧者や関連事業（イベント）参加者へのアンケートで高い満足度を示す回答を得たことは、それを証明している（「大変良かった」「良かった」と回答した方は全体の95.9%）。貴サポートにより、展示意図を十分に表現できるだけの展示物の確保が実現ただけでなく、高い技術と経験を持った業者に展示デザイン業務を委託でき、黒を基調とした「くらやみ」感の演出や好評を得た「サーチライト」の導入にもつながった。今回の企画展が充実した内容となったのは貴サポートがあったからこそであり、よって非常に効果的に「海の学び」を展開する企画展となったものと確信している。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称（五十音順）	連携・協力の内容
1. 神奈川県立生命の星・地球博物館	展示資料借用（剥製・顎歯標本）・図録掲載画像借用・情報提供等
2. 株式会社 倉沢漁業	展示資料素材提供
3. 小川漁業協同組合	展示資料素材提供（加工までの冷凍保管含む）
4. 国立研究開発法人 海洋研究開発機構	展示資料使用許可（映像）
5. 国立研究開発法人 水産研究・教育機構	展示資料素材提供・図録掲載画像借用・情報提供等
6. 静岡県水産技術研究所	展示資料素材提供・情報提供等
7. 駿河湾深海生物館 ミュゼ ヘダビス	展示資料借用（液浸標本）
8. 東海大学海洋学部	展示資料借用（液浸標本・乾燥標本・化石）・講演会講師派遣・情報提供等
9. 特定非営利活動法人 静岡県自然史博物館ネットワーク	展示資料製作（顎歯標本）
10. 独立行政法人 国立科学博物館	展示資料提供・借用（液浸標本）・情報提供
11. 日本板鰓類研究会	情報提供
12. 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」	展示製作支援

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 静岡新聞	「駿河湾のサメを紹介 きょうから地球環境史ミュージアム」2018年12月1日、「駿河湾のサメ 生態知って」2018年12月5日、「駿河湾のサメ 共生に課題」2019年2月25日、「多様なサメ 特徴、生態紹介 沼口さん（清水区）講演」2019年2月27日、「サメ展 来場1万人」2019年3月3日
2. 読売新聞	「駿河湾のサメ 懐中電灯で鑑賞 静岡で企画展」2019年3月9日
3. 静岡放送（SBS テレビ）	「ふじのくに公聴広報課」2019年1月6日
4. NHK Eテレ	「みんなの2020バンバンジャパーン！」2019年2月23日
5. FM Hi!	「ひるラジ！静岡情報館」2018年12月7日、2019年2月1日
6. FM K-Mix	「お元気ですか？HIRO'S CAFE」2018年12月16日
7. FM VOICE CUE	「アースミュージアム」2019年1月6・13・20・27日、2月10・17・24日

以上